

優秀賞

一般部門

愛知県

中井 郷子

## 母のように笑顔で生きたい

姑が寝たきりとなって三年。幸い三人の子供達は家庭を持ったり、社会人として自立している。自営業の事務、家事、そして介護で日々はあつという間に過ぎていく。そんな中、私には父亡き後、一人暮らしとなってしまった母がいる。我が家から、車で30分の距離ではあるが、なかなか覗きに行く時間がない。しかし、今年で84歳の母から来るメールには、いつも驚かされる。

ニュースを見ていたら、懐かしい田園調布の桜が満開だそうなのでちよつと見に行つてくるわね、と。ここは名古屋なのに！？夕方、今無事帰宅。行きに見事な富士山も見られてサイコー。桜と共に富士山の写真付きメール。ある時は、さて今からお昼寝。ワールドカップ予選のキックオフが夜中なので備えます、と。又ある時、明日はゴルフコンペ。どうせブービー賞が関の山だけど、参加することに意義アリ。今から早朝道に迷わないように、下見に行つてきます、と。いつものことだけど、パワフルな母の行動力に脱帽。

そんな母だけど、七歳で父親を亡くし、女手一つ、五人姉妹と共に育つた。裕福な家庭だった幼少期から一転、戦中戦後、生活は困窮していった。上三人の姉は嫁ぎ、母親と妹の生活は、16歳の母が支えなければならなくなった。地元の高校に入学して間もなく退学、会社勤めが始まった。朝出勤のため駅へ急ぐ母。家は高校の正門のすぐ前。駅からは、制服を纏い高校への通学路を歩く元同級生。みんなと顔を合わせるのが、ホント辛かった。でもコンチクショーと、以前と変わらぬ笑顔で、おはようと挨拶をした。母の笑顔の挨拶に救われてか、気まずかったであろう同級生も、おはよう、いつてらっしゃい、と次々返してくれた、と。でも、そんなことは過ぎたこと。今はとにかく前を向いて、楽しみを日々求め、笑顔を忘れない。好奇心、感動に、年齢や環境は関係ない。そう言い切る母。そんな母のように、私も年を重ねていきたい。と心から思う、今日この頃。